



【わが村運動情報】

◎ＪＲ北海道車内誌「The JR Hokkaido」１１月号の掲載情報

ＪＲ北海道車内誌には、「わが村は美しくー北海道」運動コンクールの受賞団体が毎号紹介されています。１１月号では第１１回コンクールで奨励賞を受賞した「**ハコダテフィッシャーマンズ**」（**函館市**）について紹介されています。

ＪＲにご乗車の際は、ぜひご一読ください。

ＪＲ北海道ＨＰからＪＲ北海道車内誌（最新号）の電子ブックがご覧いただけます。

（ＨＰトップページ↓の下段より「北海道旅の情報誌 The JR Hokkaido」のバナーを選択）

<https://www.jrhokkaido.co.jp/>

「ハコダテフィッシャーマンズ」については、わが村ＨＰでもご紹介しております↓

https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/ns/nou_sin/slo5pa0000019pd9-att/slo5pa0000019pqqo.pdf

◎広報誌「開発こうほう」１１月号の掲載情報

（一財）北海道開発協会が毎月発行している広報誌「開発こうほう」には、「わが村は美しくー北海道」運動コンクールの受賞団体が毎号紹介されています。１１月号では第８回コンクールで優秀賞を受賞した「**観光物産館農産物販売協議会**」（**伊達市**）について紹介されています。

広報誌「開発こうほう」は（一財）北海道開発協会のＨＰよりご覧いただけますので、「わが村は美しくー北海道 未来へつなぐ」のページをぜひご一読ください↓

<https://www.hkk.or.jp/kouhou/>

「観光物産館農産物販売協議会」については、わが村ＨＰでもご紹介しております↓

<http://wagamura-net.jp/contest/08/dantai/8401.pdf>

【わが村コラム】

今回紹介するのは、「別海町女性農業士会」（第10回コンクールNPO特別賞受賞団体）の活動です。

別海町女性農業士会は、酪農畜産に従事する女性が地域発展のリーダー的役割を果たし別海町の活性化に寄与することを目的として平成6年に設立されました。

当初5名の活動で始まった同団体ですが、発足以来72名の方が認定を受け、現在は13名の酪農家がメンバーとなり、町の産業祭での出店や小学校での出前授業等、農村文化の普及・発展のため様々な活動を行っています。

9月22日には、別海町最大の祭りである別海町産業祭において、別海産のゴーダチーズをふんだんに使ったチーズフォンデュの屋台を出店。近くで見ていると、あっという間に行列ができ、開始から1時間足らずで282食を完売する大盛況でした。私たちもなんとか購入でき、美味しくいただきました！



「別海町産業祭」に出店



「別海町女性農業士会」の皆さん

別海町産業祭は毎年9月に2日間の日程で開催されており、別海町の秋の味覚満載で多くの出店のほか、ステージショーや馬事競技大会もありご家族で楽しめるイベントですので、来年はぜひ皆さんも足を運んでみてください！

また、10月15日には同団体が実行委員として参画している「別海町酪農女性のつどい」が開催されました。この「つどい」は、農村女性にとって働きやすく、住みやすく、活動しやすい農村・

地域・町づくりはどうあるべきかを相互に学び合い、そして魅力ある農村づくりに繋げていくこと



「別海町酪農女性のつどい」

を目的としており、今回で52回目の開催となります。今回、私も特別に参加させていただきました。町民でもなく、酪農女性でもないのに良いのかなと少し緊張しながら伺いましたが、すでに会場では笑い声があふれる和やかな雰囲気、同団体の会長であり、今回の「つどい」

の実行委員長を務めている齋藤道子さんにも温かく迎えていただき、とてもほっとしました。今回のテーマは「防災とふるさと納税で作る町の未来」ということで、防災の講演と、事務局が各農協と町内にある3つの乳業工場を対象に事前に行った「停電時の電源確保対策等に関するアンケート」の結果報告があり、その後、別海町のふるさと納税の返礼品となっているチーズケーキ等を食べながら、ふるさと納税を通じて別海町を応援していただいている方々へのメッセージの作成を行うとともに、参加者の皆さんで交流を深め、閉会となりました。

同団体では、10月下旬には次世代の酪農を担う方々の教育現場について学ぶことを目的として札幌にある「八紘学園北海道農業専門学校」を視察、11月には町内の小学校において食育の出前授業を予定しており、皆さん家の仕事も忙しい中、年内もまだまだ活動が続きます。



町内小学校での食育の出前授業（R4実施時）

今回、「酪農女性のつどい」に参加させていただき、広く一般の方の目に触れる活動は多くはないのですが、地域に根ざした活動を長く続けている別海町女性農業士会の活動について、今後も皆さんに伝えていきたいと思ひます。

【わが村団体活動情報】

◎毎年恒例『遠農高マルシェ』開催！！（遠別町）

<わが村団体名：北海道遠別農業高等学校>

毎年恒例の遠別農業高等学校の生徒が作ったもち米、野菜、肉加工品、農産加工品などを販売する遠農高マルシェ！今年は10、11、12月の各月1回、計3回の開催予定で第1回目は10月31日に行われ、11月12日（火）が第2回目の開催となります。

遠農高マルシェとは、「収穫の喜びをお客様に伝えよう！」をテーマに、生徒たちが生産などに携わる加工品や農畜産物の販売をとおして、地域住民

の方々に学校の活動を知ってもらおうと生徒自らが接客や販売を行うという実習の1つです。

今回は、人気の「パウンドケーキ」や「タマネギ」「じゃがいも」「羊肉スライス」「ペリーラ（赤しそジュース）」のほか、今年の「高校生チャレンジグルメコンテスト」の本審査に出場し、第1回目に試食会を行った「羊肉まん」も販売できるよう準備中です。平日ではありますが、是非お越しください。皆様のご来校をお待ちしております。



【開催日時】 令和6年11月12日（火） 12：55～13：40

【開催場所】 北海道遠別農業高等学校（天塩郡遠別町字北浜74番地）

【お問合せ】 T E L : 01632-7-2551 (職員室)、 F A X : 01632-7-2376 (事務室)

【H P】 <http://www.enbetsunougyou.hokkaido-c.ed.jp/> (北海道遠別農業高等学校)

※詳細はH Pにてご確認ください。

◎大将から習う「旬の魚で本格和食料理教室」を開催しました！！(七飯町)

<わが村団体名：ななえの食を考える会>

『ななえの食を考える会』は、旬の食材を使った料理教室などの「食」に関する活動を行っており、10月15日(火)には七飯町の人気店『奴寿司』の大将、吉田和隆氏を講師に招き、大人向けの和食料理教室を開催しました。

ななえの食を考える会では「家庭でも手軽に手に入る食材と道具で作る」をモットーとしており、今回はシーフードミックスを使った手軽に作れる「洋風茶碗蒸し」と、旬の魚『イナダ』を使った「しゃぶしゃぶ」と「ぶり大根風の煮物」の作り方、そして今が旬の黒ホッキのさばき方を習いました。



大将は出汁の取り方や調理のポイントについて、和食の豆知識をはさみつつレクチャーしてくれました。普段は目分量で調理するため、料理教室で使うレシピを作成するために分量を量るのがいちばん大変だったそうです。難易度が高い「茶碗蒸し」が手軽に作れるとあって、参加者は活発に質問をしながら熱心にメモを取っていました。



イナダは成長とともに名前を変える出世魚で、成長につれて値段が高くなるため、栄養豊富でぶりよりも手頃な価格で手に入るイナダはオススメの魚です。今回は身の一番おいしい部分を「しゃぶしゃぶ」でいただきました。魚の

「しゃぶしゃぶ」は初めてという参加者も多く、たいへん好評でした。

どんな料理も「調味料を“さしすせそ”の順番で入れる」ということを守るだけで柔らかく美味しく仕上がるそうです。「醤油は味が入りやすく魚の身を固くするので最後に入れる」という話に参加者からは「味がしみ込むようにいつも最初に入れていたのに最後に入れるのね!」という驚きの声があがり、ふっくら出来上がった煮魚を試食しながら「調味料をいれる順番でこんなに違うのね!」とみなさん和やかに会話を交わし、並んだ料理に舌鼓を打っていました。

『ななえの食を考える会』では、今年は『伝統食を学ぶ』をテーマに様々な講座を企画していきます。イベントの案内はFacebook、Instagramで行っておりますので、是非こちらをご覧ください。また、賛助会員になるとイベントの優先受付や参加費の割引等がありますので、興味のある方はお問合せください。

【Facebook】 <https://www.facebook.com/profile.php?id=100057733476518>

【Instagram】 <https://instagram.com/nanashoku2015>

【お問合せ】TEL：090-9754-3612（ななえの食を考える会 田中）

【活動支援メニュー】

○農山漁村の案内に役立つ【便利帳】（北海道農政部）

北海道農政部では、農山漁村において旅行者を受け入れる地域の活性化に資する取り組みを積極的に推進するため、案内等に当たっての留意点や参考となる情報を紹介する【便利帳】を作成しています。詳細は、北海道農政部HPをご覧ください。

【HP】 <https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ns/ski/gt/benricyou.html>

○地域を応援するマンスリーレター（北海道経済部）

北海道経済部にて毎月発行している「地域を応援するマンスリーレター」では地域の皆さんが

活用できる支援メニューなどタイムリーな情報をお届けしています。詳細は、北海道経済部HPをご覧ください。

【HP】 <https://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kks/a0004/b0002/>

・北海道どさんこプラザ・テスト販売品の募集について

どさんこプラザ・テスト販売制度は、販路拡大・商品開発などに取り組む道内企業の方々に応援するための制度で、新商品を3ヶ月間「どさんこプラザ」で販売し、その過程で得られた情報をマーケティング活動に役立てて頂くことを目的としています。

売上が好調な商品はさらに3か月継続して販売し、販売期間終了後には、店から商品の評判や評価などのアドバイスが受けられるほか、定番商品化へ移行のチャンスもあります。

【募集期間】（テスト販売期間：第4四半期（1月～3月））

令和6年10月1日 ～ 令和6年11月20日

【お問合せ】北海道経済部食関連産業局食産業振興課 マーケティング係

TEL 011-204-5766

【HP】 <https://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/sss/marke/103176.html>

○助成金情報（公益財団法人 北海道地域活動振興協会HP）

公益法人、民間企業などの助成事業等が掲載されていますので、ご参考まで↓

【HP】 <http://www.fureaizaidan.or.jp/SubsidyList.php>

○活動支援情報（花と緑のネットワークHP）

環境保全や地域づくり活動に活用できる助成・支援制度などの情報が掲載されていますので、ご参考まで↓

【HP】 https://www.sapporo-park.or.jp/flowers/support/support_system/

< 編集後記 >

今年の夏はスーパーからお米が消え、売り場の棚にはお米の代わりにパックご飯やカップラーメンが並べられる光景に、平成の米不足を思い起こした方も多いのではないのでしょうか。今では棚一面に新米が並び、ほっと一安心。価格は例年より高めですが……。

さて、11月の祝日に勤労感謝の日がありますが、以前は新嘗祭という名前だったそうです。新嘗祭は、その年に収穫した新穀を神様にお供えし、五穀豊穡に感謝する収穫祭で、11月23日に宮中と全国の神社で行われます。

かつては、新米は新嘗祭が終わってから食べるものだったのだとか。9月には新米が出回る現代では、11月まで新米を食べないというのはあまり現実的ではない気がしますが、神様より先に新米をいただいていると考えると、とても贅沢なことなのかもしれません。

おいしいお米に感謝しつつ、来年の豊作を願いたいものです。

発行：北海道開発局農業水産部農業振興課

〒060-8511 札幌市北区北8条西2丁目 札幌第1合同庁舎13階

↓わが村HPはこちらからご覧ください。

https://www.hkd.mlitt.go.jp/ky/ns/nou_sin/ud49g7000000emhm.html

↓Facebookでも情報配信しています。

<https://www.facebook.com/wagamura>

お知り合いの方にも、ご紹介お願いします！

本メールマガジンは送信専用アドレスで配信しています。

配信希望・ご意見・ご感想はこちら hkd-ky-wagamura.u@gxb.mlitt.go.jp

※一部ホームページではInternet Explorerに対応していないものがありますので、Microsoft Edge等を使用して接続してください。
